

会 議 録

会議の名称	小金井市いじめ問題対策連絡協議会
事務局	小金井市教育委員会指導室
開催日時	令和4年2月25日（金）
開催場所	新型コロナウイルス感染症対策として、書面開催
委員	増田委員、金井委員、板澤委員、田村委員、前田委員、鈴木委員、秋葉委員、加藤委員、金澤委員、近藤委員、平見委員、末武委員、川畑委員、小峰委員、佐藤委員、橋本委員、関委員、永松委員
事務局	丸山統括指導主事、西尾指導主事、向井指導主事、郷古指導係長、辻指導係主事、増田指導係主事
傍聴の可否	可 ・ 一部不可 ・ 不可 （書面開催のため）
傍聴者数	
内容	<p>いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図るため、次の1、2について関係機関等の現状や課題を書面を取りまとめ、情報提供することで共有した。</p> <p>1 いじめの防止等に関する取組、連携、全般的なご意見等について</p> <p>2 小金井市いじめ防止基本方針について</p> <p>取りまとめた意見については、別紙のとおり。</p>
提出資料	<p>資料1 小金井市いじめ防止基本方針</p> <p>資料2 小金井市いじめ問題対策連絡協議会委員名簿</p>

令和3年度 第2回 小金井市いじめ問題対策連絡協議会 意見シート【まとめ】

(1) いじめの防止等に関する取組・連携・全般的なご意見等について

* ご所属における小金井市立小・中学校の児童・生徒に対するいじめの防止等に関する取組・他機関との連携・全般的なご意見等があればご記入ください。

小金井市立 学校	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員への研修を適宜行っている。(冊子：いじめ総合対策、人権教育プログラムを活用) ・毎週、月曜日の生活指導夕会において、共通理解を図っている。→より細かく情報共有を行うため、2グループが隔週で報告をしている。 ・児童への聞き取りを、年2回行っている。 ・年2回 WEBQU を活用し、児童一人一人の状況の把握に努めている。 <p>【課題と感じている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の研修の場が減っていることで、対処の仕方が学べない。 ・経験年数があっても、いじめ総合対策の冊子、人権教育プログラムの冊子を熟読できていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許されない行為であることを繰り返し子どもたちへ指導し続けることが大切だと考える。6月、11月のふれあい月間など、定期的に意識啓発を続けていく必要がある。 ・子供たちの変化を見逃さない教師のきめ細やかな児童理解と観察が、いじめ防止には極めて重要なことだと考える。 ・学童や放課後子ども教室、子供会、地域スポーツ団体、塾や習い事等々、いじめ防止は、子どもたちにかかわる全ての大人が取り組むべき課題であり、学校外での活動でのいじめ対策も必要だと思う。どこまでを「他機関」とするのか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校においては、アンケート調査や生徒会によるいじめ撲滅運動等を実施している所もあり、組織的な取組を続けている。大切なのは、問題行動等に限らず、日常的に「なぜそのようなことをしたのか」だけでなく、「なぜそのようなことをしなければならなかったのか」という視点で子どもたちの背景を正確に把握し、子どもの気持ちを正しく理解し、その根本に寄り添うことであると思う。子どもがいじめという手段に走る前に、その困り感に気づき、有効な支援策を講じていきたい。そのための時間や心のゆとり、支援の手だてをもっている機関等の情報が、教員だけでなく全ての大人に欲しいと感じる。また、いじめは学校が舞台になっているケースがほとんどだが、学校だけでなく、家庭や地域の教育力をもって、支援の輪が広がっていくとよいと思う。 ・他機関との連携について、それぞれの機関では何ができるのか、どのような事案を扱うことが得意なのか、意外に学校は知らない。本校では、学校では対応が難しい事案や公的な支援が必要と感じる事案は、まずは子ども家庭支援センターに相談している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、金曜、生活指導夕会にて児童の様子を報告している。 ・校内委員会、登校支援委員会により、児童の様子、方向性を話し合っている。 ・いじめ対策委員会を開き、対応の確認、方向性を話し合っている。 ・アンケートや WEBQU を実施し、集約、確認、共有をしている。

<p>教育委員会 及び小金井市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市いじめ防止対策推進条例の施行に伴い、条例の内容に合うように小金井市いじめ防止基本方針を改定し、各校に周知した。今後は、各校のいじめ防止基本方針の改定やいじめ防止に関する取組に対して、支援していく。 ・小金井市いじめ防止基本方針の全面的な改定を検討している。定例の教育委員会や小金井市教育委員会いじめ問題対策委員会でも意見等を求めている。本協議会を含めた様々な方からの意見等を収集し、改定に向けて形にしていきたい。 ・今年度も、定例の校長会や生活指導主任研修会においていじめ防止に関する取組についての情報提供を行った。また、若手教員研修においてもいじめ防止等に関する研修を行った。引き続き、文部科学省や東京都教育委員会の通知や最新の資料、小金井市教育委員会いじめ問題対策委員会での専門家等からの助言を基に、研修内容の充実努めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係や集団生活が苦手な発達障害の子どもは「変わった子ども」として目立ちやすく、いじめの標的になりやすいといわれている。こだわりが強く、登校渋りとパニックが目立ってきた児童に対して、本人の気持ちを丁寧に聞き取りながら、家庭環境を調整し、別室登校を続けてきた。その間、担任教諭は、クラスメイトにこの児童の特性等について説明をしたことで、この児童は自然に教室に入り、クラスメイトの雰囲気溶けこむことができた。それまでは同年代の子どもと交わることが苦手で、自分を理解してくれる大人とだけ接していたが、今は、クラスメイトと仲良くしている姿を見ると、担任教諭の働きかけがいじめの防止につながったと思う。
<p>東京都小平 児童相談所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者からの相談や警察からの通告を端緒にご相談に応じることが多い。個々の状況に応じて対応していく。
<p>小金井警察署</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」に起因する事件や相談等については、警察だけで対応することは難しいので、関係各機関の協力をいただき、深く感謝申し上げる。今後も小金井市の小・中学生が安心して生活することが出来るよう取り組んでいく。
<p>小金井市 民生委員 児童委員 協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染拡大が継続する中、登下校時の通学路の見守りの強化やわんわんパトロールなど委員の工夫により活動している。しかし、2年にわたり学校行事等への参加が出来ず、学校との連携が大変難しくなっている。地域でも子どもたちの姿を見る機会が激減し日々の変化を把握することが難しい。 ・民生委員児童委員として児童問題などのリモート会議、オンライン講習会に参加している。また、民生委員児童委員も LINE や SNS を使用し、担当の学校の情報を共有している。これは、デジタルネイティブな子どもたちの現状の理解につながっている。
<p>小金井市立 小中学校 PTA連合会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のある中学校では、6月と2月のふれあい月間のときに、生徒会を中心として『ピンクシャツデー』というイベントを行っている。ピンクシャツデーとは、ピンク色のシャツを着てきた男の子が同級生にいじめられたことから生まれた、いじめ防止を呼びかける他、性別や人種を問わず、多様性を大事にするという取組である。個性の大切さについて考えて欲しいという思いがこめられている。当日は、学校のきまりの範囲で小物（主に文房具や髪ゴム等）を身につけ、態度で示した。また、先生方もシャツやセーター、華美ではないアクセサリ等でピンクのものを身につけていた。保護者は子どもたちが身につけるものを相談にのったり準備したりすることでこの取組を応援した。この取組を学校運営連絡会で保護者代表として報告すると、地域の方から「この日に中学生と地域と一緒にピンク色の物などを身に付ける（所持する）ことは難しくないのではないか。」という意見をいただいた。生徒が考えて取組を行い、地域で助け、同じ願い（想い）を共有することは大変意義のあることだと考える。

(2) 小金井市いじめ防止基本方針について

* 小金井市いじめ防止対策推進条例の施行に基づいて、小金井市いじめ防止基本方針（前文の「いじめのないまち 小金井宣言」を含む）の見直しを検討しています。現行の基本方針についてご意見等があればご記入ください。

小金井市立 学校	<ul style="list-style-type: none">生活指導主任が、「小金井市いじめ防止基本方針」の会議の場に参加する機会を設けてほしい。「いじめのないまち 小金井宣言」の中には、「いじめゼロをめざします」という文言がある。もちろん「いじめゼロ」をめざすことは大切なことであり、いじめが全くないことを理想とすべきですから、そこに全く異論はない。ただ、子どもたちにかかわる全ての大人は「いじめゼロ」を前提にすることなく、いじめは起きる、つらい思いをしている子どもがいるという視点に立って、いじめを絶対に見逃さないという「いじめ見逃しゼロ」という視点が必要だと考える。いじめは、いじめを行う子がいなければ起きない。「いじめを行う子を生まないための根本的な方策」が必要と思うが、いじめ防止の名の下に示されている学校における取組や市・教育委員会における取組は、「いじめを行う子を生まないための」根本的な方策になっているのか、正直なところ疑問である。現行のままでよいと思う。
教育委員会 及び小金井市	<ul style="list-style-type: none">定例の教育委員会や小金井市教育委員会いじめ問題対策委員会からは、「いじめのないまち 小金井宣言」の見直し、児童・生徒による取組、学校における早期発見の取組、保護者や地域との連携、いじめに関するアンケートの方法、教員研修の在り方などについてご意見等をいただいている。引き続き、様々な方からご意見等をいただきながら、改定に向けて、形にしていきたい。「いじめのないまち 小金井宣言」は、「いじめを許さないまち」の方が現実的だと思う。特に、個々の教員のいじめ問題への鋭敏な感覚と的確な指導力を高めることについて、学校一丸となって取り組んでいただくことを望む。
東京都小平 児童相談所	<ul style="list-style-type: none">学校等での安心感の確保は児童にとって大変重要で、必要な取組だと考えている。今後とも宜しくお願ひしたい。
小金井市 民生委員 児童委員 協議会	<ul style="list-style-type: none">見直しの検討は、いじめの複雑化、深刻化ということで必要だとしたら、それはどのような方向で修正していくのか、例えば「文言」「内容」などあらかじめ協議会委員に情報共有が必要ではないか。
小金井市立 小中学校 PTA連合会	<ul style="list-style-type: none">いじめられた側の『なぜ』いじめられたのか、いじめた側の『なぜ』いじめたのか、これをいじめられた側といじめた側だけではなく傍観者にも伝え、全方向で考えることが大切だと思う。お互いの立場の理解が大事である。学校と保護者＋地域関係機関（以下、地域）に壁があるように感じる。学校内だけで解決しようとするので、保護者＋地域は『隠されている』と感じる。個人情報に関して厳しい状況であることも分かるが、子どもの命と個人情報のどちらが大切なのかを考えるべきである。また、学校内だけで解決しようすると、先生方の負担（心的な）が大きくなる。保護者＋地域が集う学校運営連絡会（協議会）をもっと使うべきである。学校負担が大きすぎることで、子ども達の学校生活が破綻することは言語道断である。子どもたちを支えるべき大人がたくさんいることが、子どもたちにとっても、大人にとっても最良である。